小学校高学年の発達段階の特徴について

９歳以降の小学校高学年の時期には、自分のことを客観的に見つめられるようになり、思いやりなどの能力を身につけていきます。また、集団の規則を理解して、遊びなどでは自分たちで決まりを作り、ルールを守るようになります。一方、ギャングエイジともいわれるこの時期は、数人の友達と結束を強めて活動することを好むようになりますが、危険やいじめなどの心配がない時は、子どもの様子を見守りましょう。

身体も大きく成長し、自己肯定感を高める大切な時期ですが、反面、発達の個人差も大きく見られることから、自己に対する肯定的な意識を持てず、劣等感を持ちやすくなる時期でもあります。子どもの長所を見つけて、他人と比べずに関わりましょう。家庭や学校だけでなく、地域社会での人との関わりや自然の中で遊ぶなどの体験活動が、学ぶ力を育てます。

引用・改変：文部科学省　子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題

調査に関する相談・支援のお問い合わせ

調査の回答内容から、支援が必要と思われる方には専任の保健師・公認心理師等からご連絡いたします。また、電話やメールを通して不安や悩みに関するご相談も受け付けています。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

公立大学法人 福島県立医科大学　放射線医学県民健康管理センター

妊産婦調査専用ダイヤル
024-549-5180（平日 9:00～17:00）

妊産婦調査専用メール
nimpu@fmu.ac.jp

子育て等に関するサービス（令和４年度）

◎ 女性の心身の健康に関する相談
女性のミカタ健康サポートコール
（福島県ホームページ）
（月～金　9:00～17:00　※祝祭日を除く）

◎ 妊娠・出産・育児に関する相談
子育て世代包括支援センター
（福島県ホームページ）

◎ 精神的な悩みや心の健康に関する相談
こころの電話（福島県精神保健福祉センター）
電　話 024-535-5560（月～金　9:00～16:00）

◎ いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談
ダイヤルSOS（福島県教育センター）
電　話 0120-453-141（月～金　10:00～17:00）

◎ 発達に関する相談
福島県発達障がい者支援センター
電　話 024-951-0352（月～金　8:30～17:00）

◎ ひきこもりに関する相談
福島県ひきこもり相談支援センター
電　話 024-539-8883（火～土　9:30～17:30）
メール shien-hikikomori@fukushima-youth.com

◎ SNS相談
まもろうよ こころ
（厚生労働省ホームページ）

◎ 子どもの居場所について
福島県内の子どもの居場所一覧
（福島県ホームページ）

公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
〒960-1295 福島市光が丘1番地

◎ 妊産婦に関する調査について、詳しくはホームページをご覧ください。
https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/
福島　妊産婦調査　検索

平成26年度「妊産婦に関する調査」に回答された方へ

～県民健康調査「妊産婦に関する調査」の結果について～

（平成23～令和２年度）

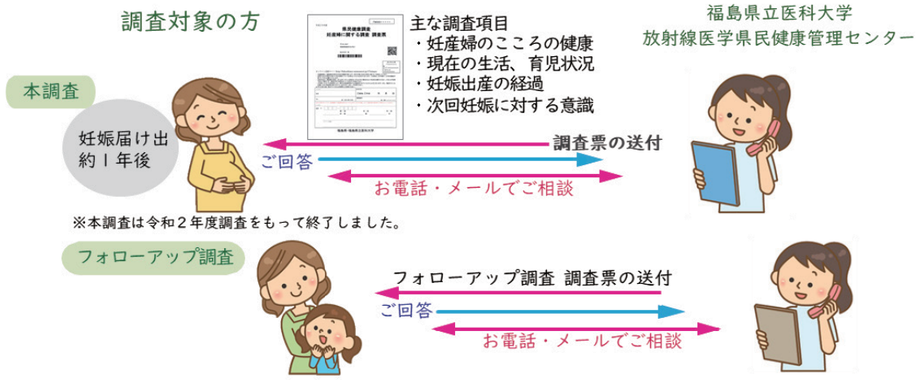
福島県と福島県立医科大学では「妊産婦に関する調査」を行っています。これまで、調査にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

今回、調査の概要やこれまでの調査結果から分かったことなどをご紹介します。いただいた回答は、福島県内の産科・周産期医療や子育てサービスの充実に役立てていきます。

調査の目的

- 妊産婦や子育て期の母親のこころと身体の健康状態を把握します
- 回答いただいた方の中でケアが必要な方をサポートします
- 今後の福島県内の産科・周産期医療や子育てサービスの充実に活かします

調査の概要



令和４年度調査対象者

● ２回目フォローアップ調査
平成26年度調査に回答いただいた方

調査対象者数と回答数

本調査

調査年度	対象者(人)	回答数(人)	回答率(%)
H23	16,001	9,316	58.2
H24	14,516	7,181	49.5
H25	15,218	7,260	47.7
H26	15,125	7,132	47.2
H27	14,572	7,031	48.3
H28	14,154	7,326	51.8
H29	13,552	6,449	47.6
H30	12,838	6,649	51.8
R01	11,909	6,328	53.1
R02	11,382	6,359	55.9

１回目フォローアップ調査
（出産後４年目）

対象者(人)	回答数(人)	回答率(%)
7,252	2,554	35.2
5,602	2,021	36.1
5,734	2,706	47.2
5,856	2,719	46.4

震災時に妊娠・出産された方へ、
２回目のフォローアップ調査を実施

２回目フォローアップ調査
（出産後８年目）

対象者(人)	回答数(人)	回答率(%)
6,643	2,354	35.4
5,152	2,178	42.3

平成26年度回答者の結果

これまでの「妊産婦に関する調査」　からわかったことをお伝えします

早産率、低出生体重児率、先天奇形率の推移

本調査の結果、早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国調査の値や一般的な水準と同等になっています。

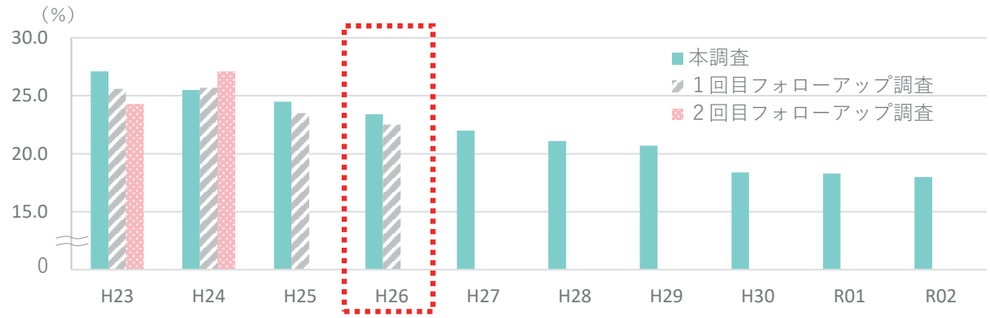
	早産率（%）※		低出生体重児率（%）※		先天奇形・先天異常発生率（%）	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
H23	4.6	5.7	8.6	9.6	2.85	
H24	5.6	5.7	9.2	9.6	2.39	
H25	5.2	5.8	9.6	9.6	2.35	
H26	5.3	5.7	9.8	9.5	2.30	
H27	5.6	5.6	9.4	9.5	2.24	3～5 （産婦人科診療ガイドライン産科編2020より）
H28	5.3	5.6	9.2	9.4	2.55	
H29	5.3	5.7	9.2	9.4	2.38	
H30	5.2	5.6	9.0	9.4	2.19	
R01	5.1	5.6	9.1	9.4	2.71	
R02	4.4	5.5	8.1	9.2	2.21	

※死産であった方を除いて再集計したため、報告書の値と異なります。
早産：妊娠22週から37週未満で生まれた赤ちゃん、低出生体重児：2,500gよりも小さく生まれた赤ちゃん
全国調査：人口動態統計における年単位の割合

うつ傾向の推移

本調査の結果、年々うつ傾向が改善しています。令和元年度本調査の「うつ傾向あり」の割合は、全国の産後うつ病疑いの割合と同等になっています。

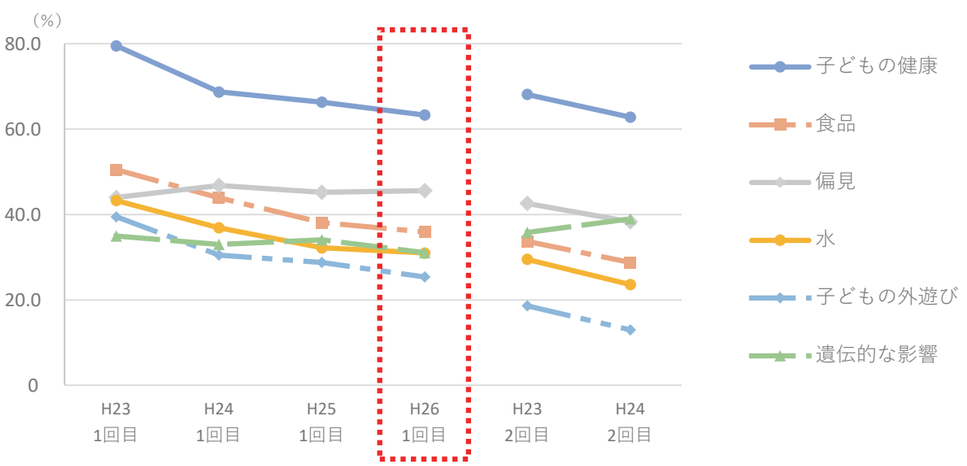
平成26年度回答者は、１回目フォローアップ調査において、うつ傾向が改善する傾向にあります。



放射線の影響について心配なこと

１回目及び２回目フォローアップ調査の結果、「偏見」「遺伝的な影響」は横ばい傾向ですが、「子どもの健康」「食品」「水」「子どもの外遊び」に不安を感じる母親は少なくなっています。

平成26年度回答者は、「子どもの健康」への不安が一番多い結果でした。



電話相談の内容

平成23年度本調査では、「放射線の心配や影響」に関する相談が一番多い結果でした。
最近は、「母親のこころや身体の健康」に関する相談が多くなっています。

	本調査				１回目フォローアップ調査			２回目フォローアップ調査	
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25、H26	H23、H24	
１位	放射線の心配や影響	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	
２位	母親のこころや身体の健康	子育て関連	子育て関連	子育て関連	放射線の心配や影響	子育て関連	子育て関連	子育て関連	
３位	子育て関連	放射線の心配や影響	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること	子育て関連	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること	子どものこころや身体の健康	

「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、仕事と育児の両立、発達など

第44回「県民健康調査」検討委員会資料

Q＆A

Q 上手に歯磨きができません。永久歯のむし歯が心配です。

福島県の小学生のむし歯被患率は53.4%と近年は減少する傾向にありますが、全国と比較し14.4%上回っています。

奥歯の磨き残しが多くなりやすいため、フッ素入り歯磨き粉を使用し、就寝前の仕上げ磨きをするなど、歯の様子を気にかけてあげましょう。また、おやつは1日2回程度、時間と量を決めて食べるようにし、ふだんの水分補給は水やお茶などの甘くない飲み物にしましょう。

参考：令和３年度学校保健統計（福島県）、母子健康手帳

Q 音読で読み間違えたり、読み飛ばしをしたりします。

これは、子どもが頑張っていないからなどではなく、脳の機能の偏りのために起こります。「読み間違い」が生じる背景には、形を正確にとらえることが難しいことや文字から音（読み方）をイメージすることが難しいことが考えられます。また、「読み飛ばし」の背景には、一文をどこで区切ったらよいのかわからず、一文字ずつ目で追ってしまったり、自分が今どこを読んでいるのかが途中でわからなくなり、単語や行を飛ばしてしまったりして文章をスムーズに読めないことがあります。

家で練習する時は、意味のまとまりで文字を区切り、漢字にふりがなをふるなどして工夫しましょう。

引用：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　発達障害教育推進センター　発達障害Q&A

Q 子どもがゲーム機等でゲームをしたいと言いますが、どう対応したらいいでしょうか。

小学校低学年の約９割がインターネットを利用しています。その内容は勉強等での利用よりも動画視聴やゲームの利用が多くなっています。令和元年には、世界保健機関（ＷＨＯ）が「ゲーム障害」を新たに国際疾病分類として認定しました。

早くから習慣的にゲームをすると、その後のゲームへの依存度に影響が出る可能性があります。最初にゲームの内容が子どもの年齢に適正なものか保護者が判断し、使用時間などのコントロールをしてあげることが大切です。また、外遊びの時間を十分に確保してあげましょう。

引用：令和３年度 青少年のインターネット利用環境実施調査（内閣府）
スマホ時代の子育て～悩める保護者のためのQ&A～（幼児・児童編）（内閣府等）

Q 将来の子どもの健康不安や、被災したことへの偏見の目が心配です。

福島県が実施した内部被ばく検査の結果によれば、検査を受けた全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされています 。さらに、妊産婦に関する調査の結果から、震災後、福島県内における先天異常の発生率等は、全国的な統計や一般的に報告されているデータと差がないことが確認されています 。

偏見による差別やいじめをすることは決して許されるものではありません。根拠のない思い込みから生じる風評に惑わされることなく、信頼できる情報かどうかを確認し、科学的根拠や事実に基づいて行動していくことが必要です。

引用：文部科学省　放射線副読本

「妊産婦に関する調査」の詳しい結果は、ホームページに掲載しています。

https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/result.html　妊産婦調査　結果　検索